

- * 「イエスの弟子」とは、イエスを信じて従う者という意味であり、その中でも特に12弟子のことを「使徒」と呼んでいる。彼らは常にイエスとともに行動し、悪霊を追い出す権威を授けられ、イエスと同じ働きに従事した。そしてイエスの復活の証人として全世界に派遣された。福音書記者のヨハネは、弟子の範囲をもう少し広くとっている。また、パウロは手紙の中に「弟子」という言葉を全く使っていない。代りに「キリスト・イエスにある者」や「主にある兄弟」という言い方をしている。
- * 「そこで、弟子たちのうちの多くの者が、これを聞いて言った。「これはひどいことばだ。そんなことをだれが聞いておられようか。」（ヨハネ6：60）イエスのことば、「わたしは天から下ってきたまことのパンである」とか、「わたしのからだを食べ、血を飲まなければまことのいのちはない」などを、肉的にそのまま受け取り、霊的な意味に思いが至らなかつた者が多くいた。
- * そしてイエスは言われた。「それだから、わたしはあなたがたに、『父のみこころによるのでないかぎり、だれもわたしのところに来ることはできない』と言ったのです。」（6：65） 私たちもそうである。神が私を召して礼拝に導かれなければ私は今この恵みの場にはいないのである。そしてイエスが神の御子であり、救い主であることを信じて、イエスのところに来るのは、神様のみこころによる。しかし、地上のことしか関心を持たず、霊的なこと、天上のことを理解できなければ弟子を止めてしまう。
- * 「そこで、イエスは十二弟子に言われた。「まさか、あなたがたも離れたいと思うのではないでしょう。」すると、シモン・ペテロが答えた。「主よ。私たちがだれのところに行きましょう。あなたは、永遠のいのちのことばを持っておられます。（6：67～68）多くの弟子たちがイエスから離れて行ったが、イエスは、ご自分が任命された12人はとどまって欲しかった。しかし、イエスはすべての人の心を知っておられる方なので、彼らが逃げたり、否認したり、イスカリオテのユダがこの後裏切ることも知っておられた。
- * 「それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを受け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」（マタイ28：19～20）イエスの弟子とは、イエスを世の救い主と信じてバプテスマを受け、イエスとともにあつてイエスのことばを守り行う者であるといえる。